

## 第2学年 生活科学習指導案

令和3年1月29日(金)

益田市立中西小学校

担任

学校司書

1. 単元名 「おもちゃまつりを ひらこう」(うごく うごく わたしの おもちゃ：東書下)

2. 単元目標

○身近にあるものを使い遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物をつくり出すことができ、その面白さや素材の不思議さ、友達や異学年と関わるよさや楽しさに気付くことができるようにする。 (知識・技能)

○身近にあるものを使い遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、相手のことを想像して伝えたいことを選んだりすることができるようにする。 (思考・判断・表現)

○身近にあるものを使い遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びをつくり出したり、進んで触れ合い交流したりできるようにする。 (学びに向かう力、人間性)

3. 単元の評価規準

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある物を使い遊ぶ活動を通して、その面白さや素材の不思議さに気付き、遊びや遊びに使う物を作っている。</li> <li>・友達や1年生と関わることよさや楽しさに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある物を使い遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、遊びをつくり出したりしている。</li> <li>・1年生を意識して、紹介するおもちゃを選んだり、遊び方を考えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある物を使い遊ぶ活動を通して、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしている。</li> <li>・進んで友達や1年生と触れ合い交流しようとしている。</li> </ul>
小単元における評価規準	1	①身近な物は、いろいろな遊びに利用できることに気付き、必要な道具を使って遊びに使う物を作ったり、遊んだりしている。	①1年生を意識して計画を立てたり、おもちゃをよりよくするために作り方や材料を工夫したりしている。	①友だちのよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、よりよいおもちゃを作ろうとしている。
	2	②遊びの楽しさや遊びをつくり出す面白さに気付き、遊びに使う物の特徴を生かして遊んでいる。	②1年生を意識して計画を立てたり、おもちゃを選んだり、遊び方を工夫したりしている。	②1年生と楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びをつくり出そうとしている。
	3	③自分が準備したおもちゃや遊びで1年生が楽しむと自分もうれしくなることに気付いている。	③1年生に伝えるように、遊び方の説明を工夫している。	③1年生に楽しんでほしいという思いをもち、進んで触れ合い交流しようとしている。

#### 4. 授業について

##### (1) 単元について

本学習は、学習指導要領生活科の内容(6)(8)を受けて設定した。本単元は、身近にある材料を使って動くおもちゃを作ること、動きの面白さや不思議さに気付くことができる内容である。そして、「もっと速く動かしたい」「もっと遠くに飛ばしたい」などの思いや願いをもって、試行錯誤しながらおもちゃをよりよく工夫したり遊びをつくり出したりする楽しさを実感できる単元である。また、おもちゃを動かすためには、ゴムやおもりなど身近な材料が利用できることに気付いたり、速さなどの動きを変えるには、材料や作り方を工夫するとよいことに気付いたりするなど、児童が楽しみながら幅広い気付きを生み出すことも期待できる。

さらに、作ったおもちゃで、友達や下学年の児童と一緒に遊ぶ活動を設定することで、自分の考えが友達に認められるうれしさや、1年生が喜んでくれることでの達成感を得ることができる単元でもあると考える。

##### (2) 児童について 〈削除〉

##### (3) 指導について

本単元のねらいを達成し、児童が「気付き」「考え」「みんなで創り出す」学習を実現するために、以下のような指導の工夫を取り入れる。

###### ① 気付きを広げるための工夫

単元を通して自分と友達のおもちゃや考えを比較したり、気付きや疑問を共有したりすることで、児童同士の気付きが繋がり、さらに広がっていくようにしたい。そのために、必要に応じてグループでの活動を行い、進んで友達と自分のおもちゃを比較できる環境を作ったり、自分の考えを伝え合う場面を設定したりする。そして、対話や観察の中から生まれた気付きを全体で共有することで、自分のおもちゃのパワーアップや遊び方の工夫につなげていけるようにしたい。振り返りでは、1時間の中での自分の学びを再確認するために、「はっけん!」(分かったこと・気付いたこと)「ハテナ?」(不思議に思ったこと)「次は…」(次に試したいこと)の3つの視点から一つを選び振り返るようにする。また、全体で共有することで、児童の新たな気付きや疑問につながるようにしたい。

###### ② おもちゃ選択の工夫

児童の実態を踏まえ、作り方が単純でパワーアップしやすいおもちゃを選ぶようにする。1次では、全員で同じおもちゃを作りパワーアップの仕方を見付けていくことで、道具や素材の扱い方、パワーアップをする際の視点などを共有し、2次の個人での学習に生かせるようにしたい。

本時では、教科書の他にも図書を活用する。おもちゃの選択肢を増やすことで、より1年生に適したものや、作りやすいものを選ぶようにする。そのために、学校司書と連携しながら児童の実態やねらいに合った図書を選び提示したい。また、数日前から教室に図書を置き、休み時間等に自由に読めるようにすることで、「おもちゃまつり」への期待が高まるようにしていく。

###### ③ 目的意識をもたせるための工夫

児童が目的意識をもちながら学習を行えるよう、単元の始めに「おもちゃまつりをひらこう」

というテーマを示し、それに向けて自分たちで学習計画を立て進めていくようにする。また、学習計画を振り返りシートと一体化させることで、その時間にすることを明確にして学習に取り組めるようにしたい。

本時では、1年生を意識しておもちゃを選べるように「選ぶポイント」を児童と一緒に考える。その際に、児童の発言を「作りやすさ(自分で作れるか)」「材料(用意しやすいか)」「道具(自分で使えるか)」「1年生が楽しめるか」の4つの視点が明確になるように整理していく。特に「1年生が楽しめるか」については、どのようなおもちゃなら遊んで「楽しい」と感じるかを考えさせ、「たくさん遊べる」「遊び方が簡単」「安全」「やったことないもの」など具体的なイメージをもつことで、相手意識をもちながら活動できるようにしたい。そして、その視点を書いたワークシートを用意し常に自分でチェックしながら、ねらいを意識しておもちゃを選べるようにしたい。

#### ④ 交流することのよさを実感するための工夫

児童が自己有用感や達成感を実感し、友達や異学年と関わることのよさを感じられるように、言われてうれしかった言葉や行動などを全体で共有し、そのときに感じたことなどを振り返るようにする。また、1年生と関わることができにくい児童には、友達の姿をお手本として見せるなどし、より積極的に関わられるようにしたい。

#### (4) 学びを深めるための学校図書館の活用

児童が1年生を意識して、自分の思いや考えに合ったおもちゃを選べるよう図書を活用し、幅広い選択肢の中から目的に合った情報を見付けられるようにする。

#### (5) 指導と評価の計画 (全14時間/本時6時)

次	時	学習内容	評価 規準	評価方法	図書館 活用
1 「動くおも ちゃを作ろ う」	1	・学習計画を立てる ・ゴムを動力にしたおもちゃを作る (パッチンガエル)	知① 思①	・行動観察, 発言	
	2	・作ったおもちゃをパワーアップさせる (ゴムの数, 太さ, 切り込みの位置, 台紙 の種類等)	思① 態①	・行動観察, 発言, ワークシート	
	3	・空気を動力にしたおもちゃを作る (ふくろロケット)	知①	・行動観察, 発言	
	4	・作ったおもちゃをパワーアップさせる (重り, ふくろの長さ等)	思① 態①	・行動観察, 発言, ワークシート	
2 「おもちゃ まつりの準 備をしよう」	5	・おもちゃまつりの計画を立てる	思②	・行動観察, 発言	
	6 本 時	・おもちゃまつりで1年生と一緒に遊ぶお もちゃを選ぶ	思②	・行動観察, 発言, ワークシート	○

	7 8 9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃを作る</li> <li>・遊び方を考える</li> <li>・必要な道具を作る</li> </ul> ※おもちゃの遊び方の説明は、国語科「おもちゃの遊び方を説明しよう」と関連付けて、国語科の中で行う	知② 思② 態②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察，発言，成果物，ワークシート</li> </ul>	○
3 「おもちゃまつりをひらこう」	13 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃまつりをひらく</li> </ul>	思③ 知③ 態③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察，発言，振り返りシート</li> </ul>	

5. 本時

(1) 本時のねらい

選ぶポイントを意識しながら、1年生と一緒に遊びたいおもちゃを選択することができる。

(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

	学習活動	指導・支援・評価
導入	1. おもちゃまつりに向けての計画を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             1年生といっしょにあそびたい              うごくおもちゃをえらぼう           </div> C:一緒に遊んで楽しめるおもちゃ C:簡単に作れるおもちゃ C:ぼくが遊んで一番楽しかったおもちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃまつり本番までの計画を示すことで、学習への見通しをもてるようにするとともに、活動への意欲を喚起させる。</li> <li>・1年生が対象であることを確認し、相手意識をもって学習に向かえるようにする。</li> </ul>
展開	2. おもちゃを選ぶポイントを考える。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">             ① 作りやすさ (自分で作れるか)              ② 材料 (集められるか)              ③ 道具 (自分で使えそうか)              ④ 1年生と一緒に楽しめるか              など           </div> C:材料が用意できないと作ってあげられないよ C:遊び方が簡単な方が1年生も楽しめると思うよ C:1年生が知らないおもちゃだと喜んでくれそう C:けがをしたら楽しくないな	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言を取り上げながら、「選ぶポイント」の4つの視点を整理していく。</li> <li>・選ぶポイントを設定することで、適切なおもちゃを選択できるようにする。</li> <li>・これまでの学習を振り返り、使った道具や材料などを板書することで、おもちゃを選ぶ際の手がかりになるようにする。</li> <li>・これまで作ったおもちゃを「選ぶポイント」に照らし合わせることで、それぞれの項目の意味についてイメージをもてるようにする。</li> </ul>

<p>展開</p>	<p>3. 選ぶポイントを参考にして、教科書や図書からおもちゃを選び、ワークシートに書く。</p> <p>C: 「びよんびよんうさぎ」は、安全だから1年生も安心して遊べそうだな。</p> <p>C: 「ふくろロケット」は、的あてにしたらみんなで一緒に楽しめそう。</p> <p>4. グループで自分の選んだおもちゃを紹介し合う。</p> <p>C: ぼくは、「ヨットカー」を選びました。わけは、競争して遊ぶと楽しそうだからです。</p> <p>C: わたしは、「ころころろん」を選びました。わけは、転がり方がおもしろいからです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ本を見たいという児童には、その場でページをスキャンして渡す。</li> <li>・なかなか選べない児童には、担任や学校司書が教科書や図書を見せながらおもちゃをいくつか提案する。</li> <li>・全員がおもちゃを選べたら、「選ぶポイント」に合っているか、ワークシートを使い確認する時間をとる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈評価〉 選ぶポイントを意識しながら、自分なりの考えをもっておもちゃを選ぶことができている。(発言・ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選び終わった児童から材料集めの計画を立て、今後の見通しをもてるようにする。</li> <li>・友達の考えを聞き「選ぶポイントの④」は人によって考え方が違うということに気付けるようにする。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>5. 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば気付いたことや分かったことを全体で共有し、次時へ繋げる。</li> </ul>

(3) 研究の視点

選ぶポイントを設定することは、1年生を意識しながらおもちゃを選択する上で有効であったか。

(4) 本時の評価基準

十分満足と判断できる 子どもの具体例	おおむね満足できると判断できる 子どもの具体例	努力を要すると判断できる 子どもへの支援
選ぶポイントを意識しておもちゃを選び、1年生が楽しめる理由が書けている。	選ぶポイントを意識して、4つの項目に当てはまるおもちゃを選ぶことができている。	これまで作ったおもちゃや教師の示すおもちゃを「選ぶポイント」と照らし合わせ、その中から選ぶように促す。

## 6. 研究協議の概要

参加者	校内 10名、校外 2名 計 12名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業について〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自分の思いや願いに合ったおもちゃを選ぶために、図書を活用した。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃまつりの際に、1年生に遊ばせてあげたいおもちゃを図書から選び、その理由を友達と伝え合った。</li> </ul> <p>〈協議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や図書が豊富にあったため、児童が意欲的に学習をすることができていた。</li> <li>・グループにして調べることで、児童同士で視点について確認し合ったり、目的を意識しながら図書を選んだりすることができていた。</li> <li>・「1年生と一緒に楽しむもの」のイメージがわきにくい児童もいたため、「自分の作りたのもの」から選ぶようにしてもよかった。</li> <li>・教科書だけでなく、図書を活用することで選択肢が広がった。多くの情報から考え、判断し、選ぶことは、児童にとってよい経験となっている。</li> <li>・児童の実態や学習のねらいに合った図書を選ぶためには、学校司書と連携していくことが重要である。</li> </ul>